

～花の社会性が日本を変える～

第 28 回「全国花のまちづくりコンクール」の受賞者決まる

農林水産省ならびに国土交通省が提唱し、花のまちづくりコンクール推進協議会（会長:萩原 敏孝）が主催する第 28 回「全国花のまちづくりコンクール」がこのほど開催され、全国から 1,667 点の応募がありました。

審査の結果、各賞の受賞者が別紙のとおり決定いたしました。

このコンクールは、平成 2 年（1990 年）に開催された国際花と緑の博覧会（花の万博）の理念を継承し、「花のまちづくり」運動を全国的に普及啓発するために平成 3 年度に創設されたものです。

日本各地で通りや広場、住宅街などを花や緑で、美しく潤いのある生活環境づくりを行っている個人、民間団体、学校・保育園、企業などに加えて、花のまちづくり運動に取り組む市町村を対象としています。このコンクールの開催を通じて、花によるまちづくりのすばらしさを世に訴え、良好な生活環境の創出を日本全国に展開しています。

なお、表彰式は 10 月 25 日（木）11 時 30 分より東海大学校友会館（東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 35 階）にて行います。

●花のまちづくりコンクール推進協議会 構成財団

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会

9 月 28 日(金) 午 前 11 時 同 時 発 表	農政クラブ （農林水産省） 農林記者会 （ " ） 国土交通記者会 （国土交通省） 国土交通省建設専門紙記者会 （ " ）
問い合わせ先	花のまちづくりコンクール 推 進 協 議 会 事 務 局 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル 公益財団法人 日本花の会 電 話 03-3584-6531

「花の社会性」とは花と人とのつながり、または花と社会とのつながりの中で、花が社会に及ぼす様々なプラスの影響（コミュニティづくり、いきいきとした地域づくり、世代間の交流、観光振興、散乱ごみの減量、環境保全、犯罪の減少など）のことをいいます。花のまちづくりコンクールは「花の社会性」をいかした活動を顕彰しています。

第 28 回全国花のまちづくりコンクール受賞者一覧表

応募者数 1,667件	市町村部門	2	団体部門	1,493
	個人部門	125	企業部門	47

第 28 回全国花のまちづくりコンクール入賞者

顕彰名	部 門	受 賞 者 名	所 在 地	
花のまちづくり大賞	大臣賞 農林水産	団体部門	長岡市立山本中学校	新潟県長岡市
		団体部門	まちづくり宮ノ下地区委員会	福井県福井市
	大臣賞 国土交通	団体部門	十文字環境美化を考える会	秋田県横手市
		団体部門	長池オアシス管理会	大阪府熊取町
花のまちづくり優秀賞	花のまちづくりコンクール 推進協議会長賞	団体部門	F・C ボランティア	神奈川県相模原市
		団体部門	長岡市立桂小学校	新潟県長岡市
		団体部門	富士市花の会	静岡県富士市
		団体部門	ガーデンシティコープ金剛東すみれ会	大阪府富田林市
		団体部門	NPO 法人 にじのかけ橋	兵庫県神戸市
		団体部門	名塩さくら台景観緑化クラブ	兵庫県西宮市
		個人部門	城戸 夫巳枝	千葉県浦安市
		個人部門	佐野 誉志照・恵美子	静岡県浜松市
		個人部門	太田 よしの	兵庫県香美町
		企業部門	イオックス・ヴァルト 企業組合	富山県南砺市
花のまちづくり奨励賞	花のまちづくりコンクール 審査委員会賞	市町村部門	水巻町・水巻町コスモスのまちづくり推進協議会	福岡県水巻町
		団体部門	東成瀬村小中連携教育実行委員会	秋田県東成瀬村
		団体部門	桜川市立猿田小学校	茨城県桜川市
		団体部門	五霞町立五霞中学校	茨城県五霞町
		団体部門	裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会	静岡県裾野市
		団体部門	掛川市立千浜小学校	静岡県掛川市
		団体部門	磐田市花の会 磐田支部	静岡県磐田市
		団体部門	大府商工会議所	愛知県大府市
		団体部門	西宮市立段上小学校 園芸美化ボランティア	兵庫県西宮市
		個人部門	手嶋 真二	山口県下関市
		企業部門	浜松労災病院	静岡県浜松市

第 28 回全国花のまちづくりコンクール入選者

部門	受賞者名	所在地	受賞者名	所在地
団体	南相馬市立原町第二小学校	福島県	水戸市立三の丸小学校	茨城県
	常陸太田市立世矢中学校	茨城県	大子町立さはら小学校	茨城県
	一中地区コミュニティセンター	茨城県	潮来市ボランティアグループ D-51	茨城県
	社会福祉法人征峯会 ピアしらとり	茨城県	小江川自治会	埼玉県
	社会福祉法人浦山学園福祉会 小杉西部保育園	富山県	中郷地区婦人会	福井県
	神山区自治振興会	福井県	おもてなし花壇グループ	福井県
	長野県須坂創成高等学校 野菜・花卉クラブ	長野県	みんなの居場所 くつろぎカフェ「かいらハウス」	静岡県
	かわづ花の会 筏場地区花壇	静岡県	小幡緑地公園サンサン会	愛知県
	関田東高砂会	愛知県	春日井市立岩成台中学校	愛知県
	咲かそうひまわり	愛知県	いきいき刈谷友の会 ガーデニング部会	愛知県
	刈谷市小垣江地区自治会	愛知県	がまごおり花フル会	愛知県
	大野木環境保全会	三重県	ITO×UR みんなの庭プロジェクト	大阪府
	ガーデニング倶楽部	兵庫県	尼崎市立南武庫之荘中学校	兵庫県
	伊丹市フラワーリーダー同好会 和	兵庫県	フラワーリーダー8期生	兵庫県
	明石市立林小学校	兵庫県	ガーデン苅尾	兵庫県
	鶉野中町花家族の会	兵庫県	網干公園みどりの会	兵庫県
	うずしおの郷地域振興協議会	兵庫県		
	個人	山田 みね	群馬県	高井 昭
植田 喜代子		静岡県	吉塚 志津恵	愛知県
三好 一弘・友子		三重県	藤田 幸一	三重県
末松 和佳子		兵庫県	奥川 きみ子	兵庫県
高木 繁嘉		兵庫県	高見 尚子	兵庫県
尾花 幸雄		兵庫県	三村 雅之	兵庫県
諏訪 早苗		兵庫県	中谷 邦子	兵庫県
間森 和生・ゆり子		兵庫県	黒木 誠子	宮崎県
企業	まごころでい藤枝南	静岡県	株式会社 ホテルサンパレー	静岡県
	大阪信用金庫	大阪府		

第 28 回全国花のまちづくりコンクール努力賞

<若葉賞>

団体	厚木市学生ボランティア団体「ぼくら」	神奈川県	小瀬戸花いっぱいの会	静岡県
企業	東京ステーションシティ運営協議会・株式会社 鉄道会館	東京都		

受賞者の活動概要および受賞理由

●花のまちづくり大賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
農 林 水 産 大 臣 賞	<p>長岡市立 山本中学校</p> <p>(新潟県長岡市)</p> <p>団体部門</p>	<p>“花と対話する山中生」を合言葉に地域と共に歩む”</p> <p>農村域にある生徒数 56 人、教職員 15 人の中学校で 1987(昭和 62)年から 31 年間、「花と対話する山中生」を合言葉に活動しています。</p> <p>花壇づくりは創立 40 周年に記念花壇がつくられたのを機に活発化しました。2004(平成 16)年 7 月は豪雨による水害、10 月には新潟県中越地震と大きな災害に連続して見舞われ、地域が元気をなくしていた中、同校の生徒が花コンテナを地域に配布し、住民を元気づけるなど、花づくりが地域と学校を結ぶ大切な活動となって、年々その活動は拡大しています。</p> <p>記念花壇は学年縦割り班、学年花壇は各学年で分担して作業し、花栽培を通じて他を思いやる心、協力する気持ちや責任感が醸成されています。花を介して地域の活性化に貢献することを目標に掲げて活動しており、地域の人たちと一緒に花を育て係わることで、地域の一員としての自覚やまちづくり意識の高揚を図っており、地域と一体となった花のまちづくりは大変高く評価されました。</p>
	<p>まちづくり 宮ノ下地区委員会</p> <p>(福井県福井市)</p> <p>団体部門</p>	<p>“住民の夢をコスモス畑で咲かせる”</p> <p>一軒の農家が休耕田にコスモスを咲かせたことが活動のきっかけとなりました。前身となる会は 1994(平成 6)年に発足し、その前年からの活動を含めると活動は 26 年間続いています。現在メンバーは 30 人で、コスモス畑は「コスモス広苑」と名付けられ、その面積は 17ha と国内でも最大級です。開花期には地区住民主体で福井コスモス祭りを開催し、約 3 万人の人出で賑わいます。</p> <p>農家組合の話し合いで休耕田を集約し、広大なコスモス畑を実現させています。コスモスをまちづくりに活かそうと何度も模索した結果、3 年前より当委員会を組織して、地区公民館が運営を支援して開催するようになりました。地区内の各種団体が祭りの開催に向けて協力することで、地域ぐるみの活動として定着しています。今年は国体の開催もあり、花でのお迎えをすすめる行政との協力体制も整い、生き生きとした活動は農村地域の活性の模範ともなるもので、大変高く評価されました。</p>
国 土 交 通 大 臣 賞	<p>十文字環境美化 を考える会</p> <p>(秋田県横手市)</p> <p>団体部門</p>	<p>“花の力を借りて、明るく潤いのあるまちづくりを推進”</p> <p>道の駅の緑地帯 450 m²、旧国道沿いのフラワーロード 300m、駅前の花壇づくりなどを中心に 2008(平成 20)年から 10 年間活動しています。30～70 歳代の会員 30 人と地域住民、小学校の児童・保護者、教職員、道の駅や JR 駅職員、土地改良区、十文字地域局などの多くの人たちの参加と協力を得ながら花のまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>横手市と合併前の十文字町は JR の駅や国道の交わる交通の要衝として発展してきましたが、合併後は駅前商店街の衰退、住民の高齢化や人口減による空き家や休耕農地の増加などで活気を失ってきたため、花の力を借りて明るく潤いのあるまちづくりを推進しようと活動を始めました。行政へ働きかけ、各種団体の協力を得て、道の駅や旧国道沿いなどに大規模な花壇ができました。花づくりに制約の多い雪国で花による地域の活性化と住民のやすらぎの場を実現し、隣接地や農村部へも花づくりが波及するなど、一連の活動と成果は大変高く評価されました。</p>
	<p>長池オアシス 管理会</p> <p>〈まとりちよう (大阪府熊取町)</p> <p>団体部門</p>	<p>“農業文化を伝える新たな環境資源の活用”</p> <p>老朽化し雑草で覆われたため池で、ごみの不法投棄や衛生面が問題視されていました。ため池改修の際に住民参加型の「ため池環境づくりワークショップ」を 1994(平成 6)年から始め、2000(平成 12)年からは周辺住民も利用できる「水と緑に囲まれたオアシス」を目指して活動しています。</p> <p>38,000 m²のため池敷地で、ワークショップメンバーを主にした市民ボランティアが、外周遊歩道沿いの緑地管理やイベント開催などに取り組んだことで、ため池は地域の憩いの場として活用されるオアシスのようにになりました。また、地域のため池に古くからある白色のハスやこれ以外にも昔から伝わる多品種のハス類を鉢で育成・保存することで、大阪・泉南地域の農業文化や江戸園芸文化を地域に伝えています。中世から現存する農業灌漑施設としてのため池の保存に加え、ため池を囲む緑地の維持管理の仕組みと運営に取り組み、その多面的利活用は市民ボランティア活動の好事例として大変高く評価されました。</p>

全ての受賞者の画像は日本花の会のホームページより (<http://www.hananokai.or.jp>)
ダウンロードできます。(9月28日午前11時より)

花のまちづくり大賞・農林水産大臣賞	<p>団体部門 長岡市立山本中学校(新潟県長岡市)</p>	
		
花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞	<p>団体部門 まちづくり宮ノ下地区委員会(福井県福井市)</p>	
		
花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞	<p>団体部門 十文字環境美化を考える会(秋田県横手市)</p>	
		
花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞	<p>団体部門 長池オアシス管理会(大阪府熊取町)</p>	
		

●花のまちづくり優秀賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
推進協議会長賞	<p>F・C ボランティア (神奈川県相模原市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>F・C ボランティアは F(flower)・C(clean)の名前の通り、市民桜まつりの会場や市役所への玄関口にあたる国道 16 号相模原警察署前交差点の手入れが行き届いていなかった植栽帯を何とかしたいという思いから、2005(平成 17)年より花壇づくりや桜並木の清掃活動に取り組んでいます。</p> <p>結成当初は 2 人で始めましたが、地元自治会による支援や近隣の中央小学校のフラワー委員会(児童)の参加など、徐々に除草や清掃活動の輪が広がり、現在は年間 750 人が活動に参加しています。また、市の自立支援窓口から、ボランティア活動や地域活動を通じて就労に向けた経験を積む「就労準備支援事業」の利用者の受け入れを行っており、活動に参加された利用者の自立に結び付いています。</p> <p>行政や民間企業などを含めた地域全体を巻き込んだ活動や自立支援事業への協力など社会性に富んだ活動が高く評価されました。</p> 
	<p>長岡市立桂小学校 (新潟県長岡市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>農村域にある児童数 37 人、教職員 13 人の小学校です。1961(昭和 36)年から花栽培活動を通して子どもたちの情操教育に資することを目的に活動しています。全校の合言葉は「花を育て 花に学ぶ」です。花苗の多くは種子から育苗し、地域の古墳に因んだ「まがたま花壇」は学年縦割り班で花壇をデザインして維持管理するなど、児童が主体となって取り組んでいます。</p> <p>「自分たちも子どもの頃にこの学校で花を育てた」経験をもつ児童の父母や祖父母、花が好きな地域住民、福祉施設の職員など、地域の様々な方々が「花の会」を組織し、土づくりや花苗植栽協力、校門前花壇の作業を花の会が分担するなど、地域と連携した活動も見られます。地域や学校周辺にも花活動を広げる努力をしており、児童が地域の福祉施設での花づくりに協力している点などが高く評価されました。</p> 
	<p>富士市花の会 (静岡県富士市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>会の発足は 1967(昭和 42)年に遡ります。前年に 2 市 1 町が合併した際、生活環境の悪化を危惧した 750 人の花好きの住民が、道端や荒地に花壇をつくる活動を始めました。今年で 51 年目となり、市内に 40 ヶ所以上の花壇や市外の福祉施設や公園等でも花壇づくりに取り組んでいます。また、市が開催する緑化のイベントにも積極的に参加しています。</p> <p>活動は組織的に統制がとれ、まとまりもよく、自分たちで種から育てた 25,000 本の花苗を大切に植え、市民のみならず公園の利用者や道行く人にも喜ばれています。また、創立 50 周年だった昨年は、東日本大震災の被災地での花壇づくりを通して、被災された方々と花と心の交流をしました。</p> <p>富士市への愛着心と住民としての責任感に溢れ、長年にわたる花のまちづくりのリーダーとしての活動は、市民ボランティアの手本としても高く評価されます。</p> 
	<p>ガーデンシティコープ 金剛東すみれ会 (大阪府富田林市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>480 戸の分譲マンションの住民が、敷地に沿って伸びる歩行者専用道路脇の空き地を市から借り受けて、1998(平成 10)年から花壇づくりを始めました。現在、会員は 25 人で約 300m の歩道の両側で花壇づくりをしています。</p> <p>会員は緩やかにつながり、歩道脇の空き地だった場所を区画して思い思いに花壇づくりをすることで、歩道は色とりどりの花で飾られた緑道となりました。散歩や買い物、通勤などで行き交う人や住民に好評です。また、花壇づくりだけでなく、近隣小学校の「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」に参加したり、マンション内で一人暮らしの市民に花を届ける「ふれあい訪問」をするなど、花育やコミュニティ活動にも積極的です。</p> <p>ハードとソフトの両面で住民や行政との合意を図り、活動の場所を創造し、地域に大きく貢献していることは、都市域の市民活動の見本として高く評価されました。</p> 

●花のまちづくり優秀賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
推進協議会長賞	<p>NPO 法人 にじのかけ橋 (兵庫県神戸市)</p> <p>団体部門</p>	<p>コミュニティガーデンづくりを通して障がい者と地域住民が交流を深め、障がい者の社会復帰へのかけ橋になることを活動の理念にしています。福祉施設利用者と地域住民が、石屋川公園内の花壇で 2004(平成 16)年から花を介した交流を続けています。利用者が水やりや除草作業などに携わり、土日祝日や長期の施設休業時には近隣住民に手伝ってもらいながら花壇づくりをしています。</p> <p>冬でも花が観賞できるように、市から支給される花以外にも自分たちで花苗を持ち込み、花壇デザインを工夫するなど、公園内の景観を楽しめるよう意識しています。</p> <p>重度の障がいを持つ方も活動に参加することによって明るい表情を見せるようになるなど、活動の効果も見られます。支援活動する人と地域住民が花壇を通してつながりを持っており、新たな花のまちづくりの形態として高く評価されました。</p>
	<p>なしお 名塩さくら台 景観緑化クラブ (兵庫県西宮市)</p> <p>団体部門</p>	<p>活動当初は残地が荒れ果て、雑草繁茂や粗大ゴミの投棄場所となっていたことに危機感を感じた地域住民が、市民団体を組織して市に緑化提案を行い、残地のコミュニティガーデン化を図りました。合計面積約 1,000 m²に住民が草花や樹木を植え、石やオブジェなどを配置して、くつろぎ、楽しめるガーデンに改善しようと 2014(平成 26)年から活動を始めました。</p> <p>活動は月 2 回午前中に行われ、会員が各々の得意分野で無理なく活躍できる体制になっており、近年ではオープンガーデンの開催も模索しています。</p> <p>ガーデンを短期間で作り上げ、単に花を植栽するだけでなく、まちのイメージを変え、実際にそれが地区への入居につながる実績となっています。これらの成果は「花のまちづくり」の意義を社会に発信する全国的なモデルとして高く評価されました。</p>
	<p>城戸 夫巳枝 (千葉県浦安市)</p> <p>個人部門</p>	<p>臨海部の埋立地の住宅街において、2003(平成 15)年から花のまちづくりに取り組んでいます。自宅の庭(30 m²)はフクシアを中心に特徴的な植物が空間を有効活用して配置され、沿道に開けた造りで町並みに彩りと潤いを与え、6 月には約 400 人の花仲間が訪れます。近隣小学校での花育や花壇(50 m²)づくりの指導の他、「うらやすガーデンークラブ」の代表として花のまちづくりの普及啓発にも熱心に取り組んでいます。2016 年には新市庁舎の玄関に、市民の手で「触れる」をコンセプトとする無農薬、ローメンテナンスな花壇(44 m²)を作り上げました。</p> <p>市民の目を惹く魅力的な花壇づくりのセンスや高い栽培技術だけではなく、管理作業の体験型イベント化により花のある町並みが面的に拡がりつつあります。花のまちづくりの先導者として不可欠な存在であり、都市における好事例として高く評価されました。</p>
	<p>佐野 誉志照・恵美子 (静岡県浜松市)</p> <p>個人部門</p>	<p>2009(平成 21)年から 10 年間、自宅の庭(200 m²)をオープンガーデンにし、自宅以外でも公共地(250 m²)で花壇づくりに取り組んでいます。</p> <p>市の職員として「浜名湖花博」を担当したことから、花の魅力に目覚め、退職 1 年前の家の建替えをきっかけに自宅のオープンガーデンを始めました。現在では市が開催している地域文化センターの講座の講師を 4 年間務めるなど、活動は花壇づくりだけでなく、花のまちづくりの普及啓発へと広がりが見られます。</p> <p>市の方針である「花と緑のまち」に協力して多くの方々に楽しんでもらえるように、公共花壇や友人宅で花苗の提供や手入れを手伝いするなど、地域住民と花を通じたコミュニケーションが図られています。いくつもの緑化活動の代表を務めており、地域の花のまちづくりのリーダーとしての活動実績が高く評価されました。</p>



●花のまちづくり優秀賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
推進協議会長賞	<p>太田 よしの <small>かみちよう</small> (兵庫県香美町)</p> <p>個人部門</p>	<p>山陰国立公園内にある佐津海水浴場の訓谷地区において、冬期以外は自宅でオープンガーデンを開催し、近隣の花壇づくりもしています。また佐津オープンガーデンの役員を13年間務め、地区内の1軒1軒が2つの花コンテナを置いて、海岸まで繋がるフラワーロードづくりの世話役になるなど、幅広く花のまちづくりをしています。</p> <p>住民が花のまちづくりを推進する上でのデザインやアイデアを提供する模範的な存在として大きな役割を担いながら、個人から隣組、地区全体を巻きこんだ負担の少ない花をいかしたまちづくりが定着しています。美しい町並み育成と観光への貢献は、広く周知されるべき優秀な事例として高く評価されました。</p> 
	<p>イオックス・ヴァルト 企業組合 (富山県南砺市)</p> <p>企業部門</p>	<p>医王山麓に位置するレジャー施設のイオックスアローザ村で、自然を利用したおもてなしがしたいという思いから、1996(平成6)年よりコテージ前の斜面地で傾斜をいかした花壇づくりをしています。当初は花壇のみの活動でしたが、訪れる方に年間を通して四季折々に咲く花々を楽しんでいただけるように、市道沿いにはアジサイや旧福光町の花であるシャクナゲ、スキー場には地元の保育園児とともにキバナコスモスを植栽し、県内外からの多くの観光客に楽しんでもらっています。</p> <p>活動はさらに発展し、「花・華まつり」と称して5月にシャクナゲまつり、7月にアジサイまつり、9月にキバナコスモスまつりを開催するとともに、体験を通して自然と花の美しさを楽しめるように、挿し木教室や品評会なども実施しています。地元のみならず地域外の人々との交流を図っていることや地域特性に合った花を用いた活動は高く評価されました。</p> 

●花のまちづくり奨励賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
審査委員会賞	<p>みずまきまち 水巻町・水巻町コスモスのまちづくり推進協議会 (福岡県水巻町)</p> <p style="text-align: center;">市町村部門</p>	<p>1986(昭和 61)年に町の花がコスモスに決定したのを機に、1988 年から活動が始まりました。コスモス栽培は社会福祉協議会へ委託の他、農家やボランティア団体との協働で行なっています。遊休地の積極的活用を図るための助成制度や栽培者の連携を図るための「コスモスのまちづくり推進協議会」を設けたことによって、全町的な取り組みに発展しました。秋には遠賀川河川敷(36,000 m²)を軸に約 500 万本のコスモスが町を彩り、町制 60 周年の 1999 年からはコスモスマツリも開催しています。また、学校給食の残渣を堆肥化する循環型社会の構築も目指しています。</p> <p>官民協働のコスモス栽培が県内有数のコスモスの名所を生み、郷土愛の醸成や文化・商工・観光の振興、町のイメージアップに繋がっている点が評価されました。</p>
	<p>ひがしなるせむら 東成瀬村小中連携教育実行委員会 (秋田県東成瀬村)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>2007(平成 19)年の国体開催を機に、県民総参加運動として小中学生によるキバナコスモスの播種が始まりました。国道 342 号沿線 1.5km を「キバナコスモスロード」と名付け、活動を継続しています。東成瀬中学校の生徒と東成瀬小学校の児童が播種、除草、種取り、種配布を行い、PTA や地元の建設業協会、地域の方々が耕起や除草などの協力をしています。2015 年からは教育委員会の研修交流を通じて、岩手県大槌町の吉里吉里学園と植栽交流も始まりました。「花やかなるせ推進事業」(村の総合計画)において花のまちづくりを担い、花が来訪者の歓迎と花いっぱいの村のアピールに役立っています。</p> <p>学校と地域を結びつける活動のみならず、キバナコスモスの栽培が他県へも広がっており、「キバナコスモスの村」として定着しつつあることが評価されました。</p>
	<p>桜川市立^{さくらた}猿田小学校 (茨城県桜川市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>農村地域にある児童 27 人、教職員 10 人の小学校で、2007(平成 19)年からコンテナによる花飾りに取り組んでいます。学校内には花壇が少なく、コンテナに花を植える活動をしたのがきっかけで、校舎前の通路 70m や学区内の 10 ヶ所に 1,200 個のコンテナが飾られています。花づくりでは高学年が低学年の児童の面倒をみる縦割りの班を組み、全児童で種子から花を育てています。これらの花を地域の方々に配付することで、地域との交流や花のまちづくりの推進、人権の花運動の推進も図っています。</p> <p>小規模校で花壇が少ない環境の中、花を栽培する体験や地域への配付の取り組みが児童の地域への社会参画意欲や自己有用感を育むことに繋がっており、花を通して地域に開けた学校になっていることが評価されました。</p>
	<p>こ^か五霞町立五霞中学校 (茨城県五霞町)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>農村地域にある生徒数 183 人の中学校で、正門や通用門、校舎の周辺などで 2013(平成 25)年から花づくりを行っています。生徒の情操教育には豊かな環境づくりが欠かせないという考えから、花いっぱいの学校づくりに取り組んできました。</p> <p>生徒会の環境美化委員会が中心となって作成した花壇計画を基に、PTA、教職員、地域と協力して作業を行い、8 割以上の花苗を種子から自家栽培し、正門前の花壇づくりや校舎周りの花コンテナ飾りを行っています。環境美化や健康福祉祭りなどに参加することによって地域との連携も強まっています。</p> <p>花づくりを通して協力し合う心や労働奉仕する精神、生命を大切に作る心が生まれ、生徒の人格形成に寄与しており、PTA や地域の理解を得て活動することで地域の連帯が図られていることが評価されました。</p>
	<p>裾野市^{すの}パノラマロードを花でいっぱいにする会 (静岡県裾野市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>富士山の麓にあたる農村地域で、2010(平成 22)年よりコスモスなどの景観植物を活かした花のまちづくりに取り組んでいます。シバ生産畑の遊休農地化の解消と地域振興を目的に、有志で景観植物の栽培を始めました。今では子どもや地元農家や女性団体、企業、市民ボランティアなどが活動に参加するなど市民運動に発展しています。市民には「パノラマ遊花の里」として広く認識され、日常の風景となりつつあり、市内の観光名所の 1 つにもなっています。</p> <p>富士山を背景とするロケーションを活かして、行政と連携した地域資産に光を当てた市民活動であり、シビックプライドや自然環境の保全意識の醸成、市民協働の推進、市のイメージアップ、観光振興など多方面の効果をもたらしていることが評価されました。</p>
	<p>掛川市立^{かはま}千浜小学校 (静岡県掛川市)</p> <p style="text-align: center;">団体部門</p>	<p>学校の重点目標に掲げた「校舎内外に花いっぱい運動を展開するとともに、きれいな心を育てる」を具現化する活動として花壇づくりを行っています。花壇デザインは学内コンクールで決定し、植替えは集会方式の全児童で行っており、草取りや花がら摘みなどの管理作業は、6 年生と 1 年生、5 年生と 2 年生、4 年生と 3 年生のペアで実施しています。花の栽培を通して、他人や生き物への思いやり、目標に向かって主体性をもって取り組む強い心の育成も目指しています。また仮植や植替えの作業は市内のシニアクラブの協力を得て活動しています。</p> <p>花壇づくりによる情操教育に成果がみられるばかりでなく、児童や地域の方々にとって花壇が学校の誇りや伝統になりつつあることが評価されました。</p>

●花のまちづくり奨励賞

	受賞者名	活動概要および受賞理由
審査委員会賞	磐田市花の会 磐田支部 (静岡県磐田市) 団体部門	<p>市町村合併に伴い各市町村にあった花の会を再編成し、2006(平成18)年に磐田市花の会磐田支部として活動を再スタートしました。現在、会員は20人で、磐田市役所や国分寺などで花壇づくり(約200㎡)をしています。</p> <p>2008年には、地域のオープンガーデンのグループにも加入し、花壇には通年で150名ほどの見学者が訪れます。また、史跡でもある国分寺を訪れる方も多く、史跡と和らぎのある美しい花壇の調和を楽しんでもらえるよう努力しています。</p> <p>花壇づくりだけでなく、毎年開催される地域のハッピーフェスタに4年ほど前から出展し、会員が製作したコケ玉などの育て方やつくり方などを来場者に教え、市民との交流も深めており、これらの地域に根ざした活動が評価されました。</p>
	おおぶ 大府商工会議所 (愛知県大府市) 団体部門	<p>大府市は昭和初期に桃の産地として全国的に知られていました。このことに着目して大府商工会議所が発起人となり、2014(平成26)年に市内にあった9つの緑化団体を統合して「花まるOBUプロジェクト」を立ち上げ、同時に市内にハナモモを植えて育てる活動を始めました。</p> <p>「ハナモモによる桃源郷づくり」を目標に、あいち健康の森公園に5年間で約1,000本の苗を植え、植樹後も450人のメンバーが管理に携わっています。それぞれの木はオーナー制になっていて、各々が責任を持って育てていますが、樹木の植栽は初めての方が多く、維持管理講習会で育て方を学び、栽培のスキルを高めています。</p> <p>地域特性や歴史的資産の見直しによる地域活性化を目指した花のまちづくりが評価されました。</p>
	だんじょう 西宮市立段上小学校 園芸美化ボランティア (兵庫県西宮市) 団体部門	<p>小学校近隣のご夫婦が2003(平成15)年に、校内の環境美化のための花づくりを申し出たことが活動のきっかけとなりました。4年前からはボランティアメンバーを募集し、現在は14人で活動しています。子どもたちが安心して学べるきれいな環境づくりと植物を慈しみ育てる情操面での教育、地域の人々に開かれた交流の場づくりを目指しています。</p> <p>コニファー類と組み合わせた円形のシンボル花壇やコンテナなどに、自分たちで育てた花苗を植え、ポリウムと季節感のある花壇を作り上げています。夏休み中は教職員や保護者が水やりに協力しており、花壇の花はそれに応じて咲き続けています。</p> <p>小学校や保護者のみならず、地域住民も積極的に花壇づくり活動に取り込み、小学校全体を花いっぱいに行っている点が評価されました。</p>
	手嶋 真二 (山口県下関市) 個人部門	<p>故郷の自然の美しさを再認識し、定年後に故郷に戻り、実家に隣接する山林を購入して里山の自然をいかした英国風の庭園を目標に2005(平成17)年から活動を始めました。「手嶋ガーデン」と名付けたガーデンは徐々に面積を広げ、現在では6,600㎡にまでなりました。「故郷の自然と調和した癒しの場」を心掛けて庭づくりに取り組んだ結果、県内外のガーデニング愛好者が訪れ、憩いの場として親しまれています。2008年からは通年でオープンガーデンとし、年間の見学者は約2,000人になります。</p> <p>住居であるログハウスはミニコンサートや課外授業の場として園児や児童などに提供し、情操教育の場としても活用するなど、交流を行いながら地域の活性化に貢献していることが評価されました。</p>
	浜松労災病院 (静岡県浜松市) 企業部門	<p>主に急性期医療を担う基幹病院で、病院内の花壇づくりは2013(平成25)年から始まりました。全職員の473人が花壇活動に関わり、ブラッシュアップの研修も行っています。</p> <p>病院の理念を「仁愛の病院—ヒューマニズムとアカデミズム」と掲げ、療養環境の改善にも取り組み、その一環として敷地内の花壇だけでなく、病棟内にも植物を飾ることで、入院している患者や訪れる家族の心のケアにも気遣っています。</p> <p>芝生の中に色とりどりの花木や草花が植えられ、心地よい空間を創り出し、患者や来訪者の目を和ませています。庭園は通年公開しており、夏期にはオープンテラスでの夏祭りを開催し、子どもたちを含めた地域住民との交流を深めています。地域に根ざした活動を行っていることが評価されました。</p>